

2-5 インターネットを通じた情報の共有

2-5-1 アジア防災センターのウェブサイト

アジア防災センターでは、図 2-3-1-1 のように、「ADRCについて」、「最新災害情報」、「メンバー国及びアドバイザー国の防災情報」、「多国語防災用語集」、「イベント」、「文献・出版物」の防災情報データベースを構築しています (URL <http://www.adrc.or.jp/>)。

The screenshot shows the ADRC website interface. At the top, there is a header with the ADRC logo and navigation links for '多国語防災用語集', 'サイトマップ', and 'ENGLISH'. Below the header is a search bar with the text 'サイト内検索' and a '検索' button. The main navigation menu includes 'トップページ', 'ADRCについて', 'ADRCの活動', '最新災害情報', '防災情報', 'イベント', and '文献・出版物'. The content area is divided into several sections:

- 最新イベント情報**: 2007年08月25日, 2007年8月25-27日, アジア防災会議2007. >>詳しくはこちら
- 過去のイベント情報**: 2005年4月15日, インドにおける津波災害多国籍調査団による. >>詳しくはこちら
- 過去の出版物情報**: 2005年4月15日, インドにおける津波災害多国籍調査団による. >>詳しくはこちら
- 最新ニュースレター**: ADRCハイライト vol.178, バックナンバー
- ADRCからのお知らせ**: 2007年08月25日, 2007年8月25-27日, アジア防災会議2007. >>詳しくはこちら
- 最新災害情報**: 2008年01月22日, 2008年1月22日の報道によると、中国東部、中部の広い範囲で、大雪により少なくとも16人が死亡し、交通機関が混乱した。 >>詳しくはこちら >>Go to JAXA DMSS
- 2008年01月15日**: 2008年1月15日、インドネシア、パプア州で発生した地滑りにより、少なくとも10人が死亡した。 >>詳しくはこちら >>Go to JAXA DMSS
- 2008年01月14日**: オーストラリア、クイーンズランド州で2008年1月14日から発生した洪水により、3200人が避難している。 >>詳しくはこちら >>Go to JAXA DMSS
- 2008年01月12日**: 2008年1月12日からの大雨による洪水で、ブラ...

On the right side, there are several featured links and reports:

- オンラインリソース**: GLIDE number, >>世界災害共済番号(GLIDE)とは, Sentinel Asia Project, 災害管理サポートシステムとは, >>災害管理サポートシステムとは
- ADRCプロジェクト報告**: 津波意識調査 スリランカでの調査結果, 自然災害データブック 2006年災害発生状況, Inamura no Hi Tsunami Awareness, TDRM Good Practices, ACDR 2007 25-27 June in Astana
- 連携機関**: ISDR 国連国際防災戦略, IRP 国際防災復興協力機構, ADRRN

図 2-5-1-1 ADRC の Web Menu

本年度は利用者の必要な情報を容易に検索できるよう既存ホームページを改善すると共に、掲載コンテンツの充実を図りました。トップページには、最新情報を中心に掲載し、オンラインリソースとして関連プロジェクトである GLIDE や災害管理サポートシステム等を掲載、また最新の ADRC の関連プロジェクトの報告、さらには関連国際機関とのリンクも掲載しました。

次に「ADRC の活動」等のページにて具体的な活動内容等を図 2-3-1-2 のように分かりやすく整理し、掲載しています。



図 2-5-1-2 ADRC の活動

図 2-3-1-3 に示すように、これらの防災情報はそれぞれデータベースの形で情報を蓄積しており、インターネットを介してリクエストがあると、そのデータベースから情報を取り出し、どのような色やレイアウトでユーザーに見せるかを記したインストラクション(教示書)を参考にしながら、ユーザーへハイパーテキストの形式の情報伝えていきます。

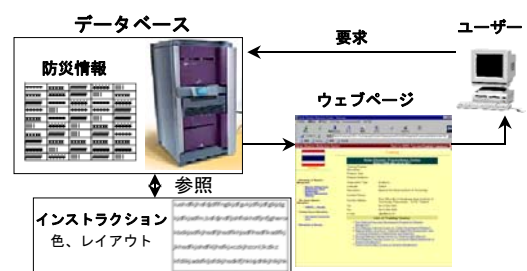


図 2-5-1-3 データベース連動型 Web

情報そのものをデータベースに、レイアウト等をインストラクションにそれぞれ独立させておくことで、データ管理者をレイアウト設定の煩雑な作業から解放し、かつユーザーのニーズや技術革新の進歩に応じてレイアウトを一括して自由に変更するこ

ともできます。

また、このようなデータベース管理とすることで、情報のカテゴリ別、国別の 2 種の扉をユーザーに対して用意することができ、情報へのアクセスを容易にするためのディレクトリを提供することが可能になっています。

更新作業は、インターネットを介して遠隔地から行うことができます。今では、全てのデータベースについて、一部の機能を除き Web ページ経由で情報更新が可能となり、より正確な情報提供と速やかな情報更新が可能となりました。

最新災害情報のデータ収集及び登録は、センター員及びアルバイトにより運営されており、災害発生から情報収集登録までの時間を短くできるようにしています。

2004 年 12 月 26 日にインドネシアのスマトラ島沖で発生した地震及びインド洋諸国に甚大な被害をもたらした津波が発生した際には、当サイトが Yahoo ニュースから直接リンクされていたため、ADRC の HP に対するアクセスは 1 時間当たり 10 万件となりました。

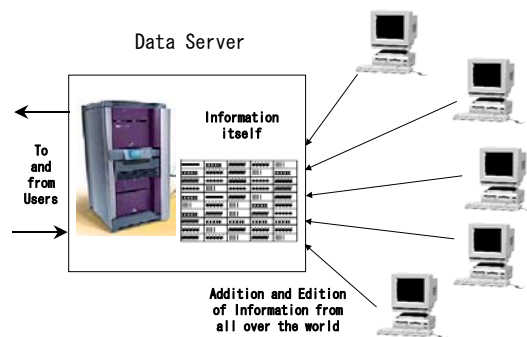


図 2-5-1-4 インターネットを利用した遠隔地からの情報更新

2-5-2 最新災害情報データベース

災害が発生すると、マスメディア、中央・地方政府、国際機関、NGO などさまざまな機関が被災地の被害状況や救援に関する情報を発信します。しかし、こうした情報はそれぞれ個々に発信されているために、必要な情報を集約するためには時間がかかってしまいます。

アジア防災センターでは、これらの情報を一覧して入手できるように、ウェブ上で発信されている情報の要約を作成するとともに、オリジナルの情報へのリンクを張った最新災害情報データを公開しています。

具体的な提供情報としては、災害概要（発生日、発地域、概略）、被害概要、関連リンク情報（関連レポート・記事、地図情報、緊急援助関連情報、協力者からの情報、画像データ）に加え、2007年度からは JAXA DMSS へのリンク付けを行い、緊急観測が発動されている災害に対しては、災害発地地の衛星画像情報の提供を行う等、付加価値を高めました。2008年3月末現在、約1,100件の災害情報を提供しています。



図 2-5-2 最新災害情報ウェブページ

2-5-3 ニュースレター「ADRC Highlights」の発行

アジア防災センターでは、メンバー各国等との情報共有推進のためのツールのひとつとしてインターネットや電子メールを活用した情報発信を行っていますが、その代表的なものが、1999年6月1日より、月2回のペースで発行しているニュースレター「ADRC Highlights」です。

ニュースレターは、Web上で公開する一方、Eメールで、ADRCのカウンターパートをはじめ、過去のADRC専門家会議参加者、内外のADRC関係者、ADRCへの来訪者、ADRCが参加した国際会議の他の参加者、ADRCが実施した研修事業の研修員などに日本語、英語、ロシア語で発信しています。

発信者リストに登録者の推移としては、2008年3月1日時点で日本語版880名、英語版2,163名、ロシア語版170名となり、前年度末より人数ベースで308名の増加となりました。

掲載内容としては、ADRCの最新の活動紹介や同スタッフが参加・発表した国際会議等のレポート、さらにADRC外国人客員研究員による国別報告などを取り上げています。

ADRCが実施する研修事業への参加者や内外関係者との関係を保つために、ニュースレターは大変有効な手段であり、今後のADRCの活動にとって大変有益であるといえます。また、Eメールでのニュースレターの発信直後に反響が返ってくることも多く、情報共有の推進にも役立っています。

表 2-5-3 ADRC ハイライト記事詳細

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
159	<p>●JICA セミナー「防災行政管理者Ⅱ」及び「南・東欧防災コース」を実施、成功裡に終了</p> <p>「防災行政管理者」研修は、2000年からJICAに委託されADRCが実施している研修である。2006年度の研修は、南東欧からの研修員と共に、2007年1月15日～2月23日にかけて実施された。研修員は計14カ国19名の参加があった。研修内容は、中央政府、地方自治体、防災関連施設訪問、タウンウォッチング実習などから構成された。</p> <p>●台風委員会ハイレベルワークショップにADRC 所長が参加</p> <p>本会議では、台風委員会 から各種提言が出されたが、その中に、ADRCが取り組んでいるGLIDEへの台風委員会としての支援、台風委員会の活動促進のための人的資源・資金の有効活用、ホームページの改良、気象予報に関する訓練強化、環境に関する研究の強化などが打ち出された。</p>

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
160	<p>●フィリピン国ルソン島マヨン山付近における泥流被害調査を実施 山口大学大学院のロランド助教授と共同で、2006年12月1日にフィリピン国ルソン島南部のレイヨ山付近にて発生した泥流被害について、1月15～17日の3日間、現地調査を行った。泥流被害に関する住民への聞き取り調査ならびに地盤工学の視点からのフィールドワークから、災害時における適切な避難地および早期警報システムの不備などが明らかになった。</p> <p>●アジア防災センターと JICA の防災面における協力- JICA セミナー「イラン地震災害管理者研修」 2007年2月18日から3月3日にかけて、イランの行政計画庁や住宅都市開発省、内務省など防災担当省庁から計12名が来日し、日本の防災体制をモデルケースとして学んだ。またイランは地震国であることから、地震に対する予防策や建造物の耐震化について重点的に研修を行った。</p> <p>●お知らせ</p>
161	<p>●スリランカ・ゴール県における防災教育プログラム 本プログラムは USAID の支援を受け、2006年3月から2007年3月にかけてスリランカ・ゴール県において実施されたものである。本研修の成果としては、持続性といった面から6月の第一週目を『防災教育週間』と定め、毎年実施するように決定した。</p> <p>●アジア防災センタースタッフ紹介 No. 27 -田中 修平 主任研究員</p>
162	<p>●スリランカにおけるコミュニティの防災力向上プロジェクト、2007年3月末終了 本事業は、外務省の日本 NGO 支援無償資金協力に基づく支援金を得たもので、ゴール県におけるコミュニティ防災能力向上のために、コミュニティレベルのハザードマップ作成を推進するべく、2006年4月から2007年3月にかけて実施された。1年間を通じて、総計ゴール県19地区で100のワークショップが開かれ、3,350人の住人が参加した。</p> <p>●JICA 研修「イスタンブール災害調整機能強化」コースを実施 2007年3月12日から22日にかけて、イスタンブール市および同市災害調整センターから6名が来日し、県と市の連携体制の強化を目的とし、主に日本の行政における国と地方の役割について学習した。</p>
163	<p>●ソロモン諸島地震津波緊急調査報告 -北大・東大・ADRC/ IRP・産総研合同調査 2007年4月2日に発生したソロモン諸島ギゾ島近辺における地震・津波の合同調査を、2007年4月11日から22日にかけて実施した。甚大な建物の被害にもかかわらず、死者がゼロ、あるいは少ない集落も多くあり、住民のヒアリングから、インド洋津波の教訓、地域に津波の伝承の存在、地形、発生時刻などから、犠牲者が少なかったことが明らかとなった。</p> <p>●「防災優良事例集—2007 増補版—」を発行 ADRC メンバー国の防災における優良事例を取りまとめた。</p> <p>●ACDR2007 : 2007年5月31日登録締切</p>

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
164	<p>●フィリピンとの共同プロジェクトを無事完遂 - GLIDE を利用した災害データベース (CALAMIDAT. Ph) の完成セミナーを開催</p> <p>フィリピンのカウンターパートと協力し、フィリピンにおける GLIDE 準拠災害データベースおよび Web サイトの構築のため、2006 年 8 月から共同プロジェクトを進めてきたが、2007 年 4 月 23 日にフィリピン防衛大学において、「完成セミナーを実施し、フィリピンにおける過去 30 年間の災害データの整理を行い、災害データベースおよび WEB サイトを構築し、同時に世界災害共通番号である GLIDE を取り入れることによって、国際間の災害データ情報を供覧することが可能となった。</p> <p>●アジア防災センタースタッフ紹介 No. 28 -横堀 肇 参与</p> <p>●アジア最新災害情報 -中国の地震</p> <p>2007 年 6 月 3 日午前 5 時 34 分に中国南西部の雲南省普洱市でマグニチュード 6.4 が発生。</p>
165	<p>●UN/ISDR 第 1 回防災グローバル・プラットフォーム会合が開催、ADRC も参加・発表</p> <p>2007 年 6 月 5～7 日に開催された標記会合において、ADRC はセッションワークショップ及びサイドイベントにおいて、コミュニティベースのハザードマップ作成事例などについて発表し、会場からは地域の防災力向上におけるコミュニティの重要性への賛同など、活発な意見交換が行われた。また、IRP はよりよい復興についてのサイドイベントを開催し、80 名以上の参加者のもと、災害復興に関して熱い議論が交わされた。</p>
166	<p>●「アジア防災会議 2007」成功裡に終了</p> <p>2007 年度の ADRC メンバー国会議は、カザフスタンの首都アスタナで開催された。本会議では、アジア地域の HFA 実施状況の検討、優良事例や成果の評価、実施における障害や課題の特定、今後の方向性の提言などを行い、またガバナンス、教育、科学知識の応用、官民連携、コミュニティ防災などの関連するトピックスの取り組みについても議論を行った。会議サマリーとして、アジア地域の持続可能な開発のためには、HFA 実施を更に加速させる必要性について再認識され、閉会した。</p>
167	<p>●JICA 中央アジア・コーカサス研修フォローアップ事業を開催</p> <p>2004 年度から 2006 年度にかけて実施された本研修の帰国研究員のフォローアップを行うため、また 2007 年度以降の研修をよりよいものにするために、カザフスタン共和国のアスタナで実施された。元研修員からは、防災教材等の防災資源の共有化、域内での情報共有化、域内情報ネットワークの確立の重要性について再確認された。</p> <p>●ADRC 客員研究員レポート -ヌエツ・ジン・エイ研究員 (ミャンマー)</p>
168	<p>●パイロット校からのレポート -スリランカ防災教育プログラム後の活動報告</p> <p>スリランカ防災教育のパイロット校のうちの一つであるサンガミータ・カレッジから届いた、プログラム終了後の防災教育への取り組みについて紹介した。プログラム終了後も同カレッジでは、持続的な防災教育のシステムを作り、体系的に防災教育を実施している。</p> <p>●ADRC 客員研究員レポート -カリバイ・カナトベック研究員 (キルギス共和国)</p>

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
169	<p>●パキスタン・地震リスクマネジメント国際会議が開催、ADRC も参加・発表 ADRC は、2007 年 4 月 28 ～30 日にイスラマバードで開催された標記会議に参加し、「耐震補強の背景および実施例」と題して日本の実際の耐震診断および耐震補強例についての発表を行った。</p> <p>●JICA セミナー「南東欧地域防災対策コース」を実施 2007 年 7 月 30 日から 8 月 10 日にかけて、アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、セルビアの 4 カ国から防災担当行政職員 5 名が来日し、本邦研修が実施された。</p>
170	<p>●中国上海市で開催の「21 世紀民間防衛発展戦略国際シンポジウム」に ADRC が参加・発表 2007 年 7 月 26 ～27 日に開催され、ADRC からはコミュニティ防災に関する事業などの活動に加え、兵庫県が県下の全市町やコンビニエンスストアなどの民間企業と事前に緊急支援協定を結んでいることを優良事例として紹介した。</p> <p>●お知らせ -公開フォーラム『災害軽減に向けての水循環の維持』が 10 月 10 日（水）国連大学にて開催</p>
171	<p>●JICA 研修「イスタンブール災害調整機能強化（2）」コースを実施 イスタンブール大都市の防災担当職員 10 名を招聘して行われた第 2 回目の研修である。2007 年 8 月 27 日から 9 月 7 日にかけて、東京、神戸で研修が行われ、中央政府、地方自治体の防災体制について勉強するとともに、防災の日に合わせて開催された避難訓練も見学した。</p> <p>●国連国際防災戦略兵庫事務所の開設記念式典及び公開フォーラム「人間の安全保障と国際防災協力」を 2007 年 10 月 14 日、神戸で開催</p>
172	<p>●モンゴルとの共同プロジェクト：「GLIDE を利用した災害データベースの構築」セミナー モンゴル国家危機管理庁と協力し、GLIDE に関するワークショップを実施した。モンゴルは自然災害多発国であることから、災害データベースの構築に高い興味を示した。</p> <p>●お知らせ</p>
173	<p>●JICA セミナー「中央アジア・コーサカス防災行政コース」 第 4 回目となる同研修は、2007 年 6 月にカザフスタンで実施した帰国研修員のためのフォローアップ事業において、帰国後の活動の報告や意見交換で研修の成果が確認されたが、その時課題として取り上げられていた帰国研修員による次期研修員に対する事前研修制度については、適正に実施されつつあり、研修員たちは研修に対して高い目的意識を持って参加していた。</p> <p>●国際防災会議 (IDRC) 2007 本会議は 2007 年 8 月 21～25 日に中国・ハルビンで開催され、内閣府による基調講演の他、ADRC から「インドにおけるサイクロン・リスク・スワップ取引に関する有効性指標の検討」、「インドネシア・ジャワ島南岸津波調査及び津波ハザード評価手法の提案」の発表を行った。</p> <p>●アジア太平洋防災教育ワークショップ UN/ISDR 主催の防災教育会議がバンコクで開催された。ADRC からも参加し、タイ、スリランカで行った防災教育プロジェクトの紹介や活動のパネル展示も行った。</p>

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
174	<p>●インドネシア津波被害児童向け学校防災教育プログラムの実施 2005年度から2007年度の3年間に渡る文部科学省からの委託事業として、シアクアラ大学、ASB (NGO)、パイロット校、インドネシア教育省等の協力を得て、実施された。2007年10月20日、教員用の学校防災指導教育マニュアルがまとめられ、検討会が開催された。会議で得たフィードバックを反映させ、2007年末までにバンダアチエの学校に配布されることになっている。</p> <p>●アジア最新災害情報 -バングラデシュ・サイクロン サイクロン・シドルは、2007年11月15日にバングラデシュ南部から中央部にかけて上陸し、深刻な被害をもたらした。</p>
175	<p>●新年あけましておめでとうございます</p> <p>●バングラデシュにおけるサイクロン災害現地調査 ADRCは、11月27日～12月3日にかけてサイクロン・シドルの緊急被害調査を、実施した。調査の結果、今後の課題としては、警報の重要性のさらなる普及啓発、サイクロンシェルターの増設、家畜避難用としてサイクロンシェルター近くに小高い丘（キッラ）の設置、被災した堤防や道路の早期修復、さらには、被災者の自立復興を支援するためにこれらの復興事業における被災者の雇用などが挙げられた。</p>
176	<p>●バングラデシュにおける地方行政官を対象としたワークショップ開催 UN/ESCAPによる津波リージョナルトラスト基金を活用して、2007年11月28-29日の2日間、バングラディッシュのダッカにおいて、バングラデシュ政府食糧防災省と共催のもと、防災を担当する地方行政官を対象としたワークショップ「コミュニティベースのハザードマップ開発におけるトレーナー育成プログラム」を開催した。バングラデシュ各地の自治体職員19名が参加し、その手法について学んだ。今後彼らがトレーナーとして他の職員や住民に伝達していくことになっている。</p> <p>●第2回アジア防災関係会合への参加 2007年11月7日から8日にかけて、インド・デリーにて開催された。ADRCは、インド政府からの要請によりパートナー機関として運営に携わり、政府間会合では、鈴木所長より官民防災協力での日本での取組事例の紹介、またテクニカルセッションにて村田研究部参事より「阪神・淡路大震災からの教訓」、渡部主任研究員より「マクロゾーンネーションと地震リスク評価」の発表を行った。また、IRP事務局も、今年策定されたIRPの戦略的活動指針において、各地域機関との連携がIRPの取り組みの柱の一つとされたことから、その一環として同会議に参加し、11月8日午前、インド国家防災会議委員のレディ氏を議長に、またデービス英国クランフィールド大客員教授をパネルディスカッションのモデレーターに迎え、「過去の災害復興事例から学ぶ教訓」と題する地域フォーラムを、サイドイベントとして実施した。</p> <p>●SAARCメンバー国とのワークショップ開催 2007年11月6日にデリーにて、SAARC域内で必要となる防災活動として、衛星技術を活用した脆弱性マップの開発（当初はフィージビリティ・スタディ）や各国の伝統的な防災ノウハウの収集に関する計画が紹介された。</p>

号 数	記事のタイトルおよび主要記事の概要
177	<p>●JICA 草の根技術協力事業「アジア NGO 防災研修」第一年次プログラムの実施 2007年度から2009年度にかけて実施されるADRRN防災能力向上プログラムの第一年次プログラムを実施した。アフガニスタン、バングラデシュ、インド、マレーシア、フィリピン、スリランカのNGOスタッフから各1名ずつ招聘し、本邦研修を行った。防災能力向上だけでなく、普段顔を合わすことのないADRRNメンバーが2週間という時間を共に過ごすことにより、信頼関係を構築する機会を提供したともいえ、今後のADRRNの発展に大きく寄与するものと思われる。</p> <p>●ADRC 出版物：『自然災害データブック 2006』 2006年に発生した自然災害のデータを集め、その傾向を分析した冊子（日本語および英語版）を発行した。</p>
178	<p>●インドにおける地方行政官を対象としたワークショップの開催 UN/ESCAPの津波リージョナルトラスト基金を利用し、2007年12月20～21日にかけて、インド・チェンナイで実施した。研修生は2日間のワークショップを通じて、インド東海岸の抱える自然災害リスクに対する理解を深めると共に、タウンウォッチングを用いたハザードマップの作成の有効性を理解し、さらにはマップ作成を通じた参加者のリスクコミュニケーションについても学ぶことができた。</p> <p>●お知らせ (1) 国際復興フォーラム『よりよい復興に向けた防災人材育成』が開催、(2) 都市防災に関する地域会合が神戸で開催</p>
179	<p>●ADRC 客員研究員レポート - ジャン・ユンシャア研究員（中国） 中国からの客員研究員としては2人目となるユンシャア研究員を取り上げた。同研究員は、NDRCCにおいて災害情報収集・分析、自然災害による被害評価を担当している。中国の防災システムの現状についての説明の後に、同研究員は、日本の滞在期間中に被害評価・脆弱性評価についてさらに取り組みたいとの豊富を述べた。</p> <p>●お知らせ</p>
180	<p>●ADRC メンバー国共同プロジェクト 2007：国際都市捜索救助トレーニング（シンガポール） シンガポールの市民防衛庁の協力のもと、2001年より毎年市民防災学院で行われる捜索救援コースにメンバー国の研修生を派遣している。本年はバングラデシュ、韓国、ネパール、フィリピンから4名を招聘し、2008年2月25日から3月7日にかけて実施された。</p> <p>●DRH アジアワークショップ開催（北京） 防災科学技術研究所と北京師範大学の共催により実施された本ワークショップは、DRHアジア事業のこれまでの成果の評価、プロジェクト目標達成に向けた問題点の特定、今後の課題の検討を目的に実施された。ワークショップでは、DRH声明、DRHコンソーシアムの設立、将来のDRHの活動の推進、持続に関する憲章が採択された。</p> <p>●都市防災フォローアップ会合開催（バンコク） 2008年1月23～24日に神戸で開催されたブレインストーミング会合を受けて、2月14日にバンコクで都市防災フォローアップ会合が開催された。参加機関は、議論を深め、今後の地域タスクフォース活動の指標となるマトリクスを完成させることが確認された。</p>

2-5-4 多国語防災関連用語集

アジア防災センターでは、1990年に始まった国連の「国際防災の十年（IDNDR）」の活動を通じて編さんされた多言語による防災用語集（日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語）をより広く多くの人々に利用できるようにする目的で、ホームページ上で中国語をのぞく4ヶ国語防災用語集としてデータの提供を行ってきました。

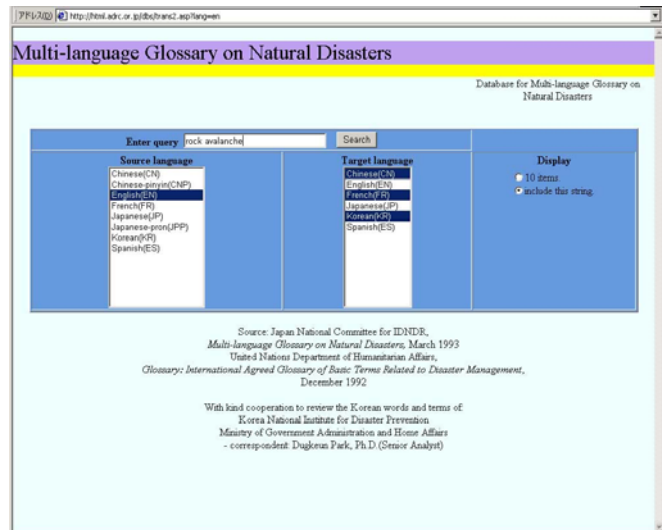


図 2-5-4-1 多国語防災関連用語集

2002年度からは、中国語の用語をデータベース化するとともに、韓国行政自治省国立防災研究所の上級アナリストである Dugkeun Park 氏の協力を得て、韓国語の用語集を編さん、データベース化を実施し、6カ国防災関連用語集としてウェブ上で公開しています。

この用語集には、通常の辞書では見つかりにくい防災関連の専門用語などを中心に約 3,200語が収録され、防災に関する数値データや技術資料、研究成果などの共有を深めることに寄与しています。

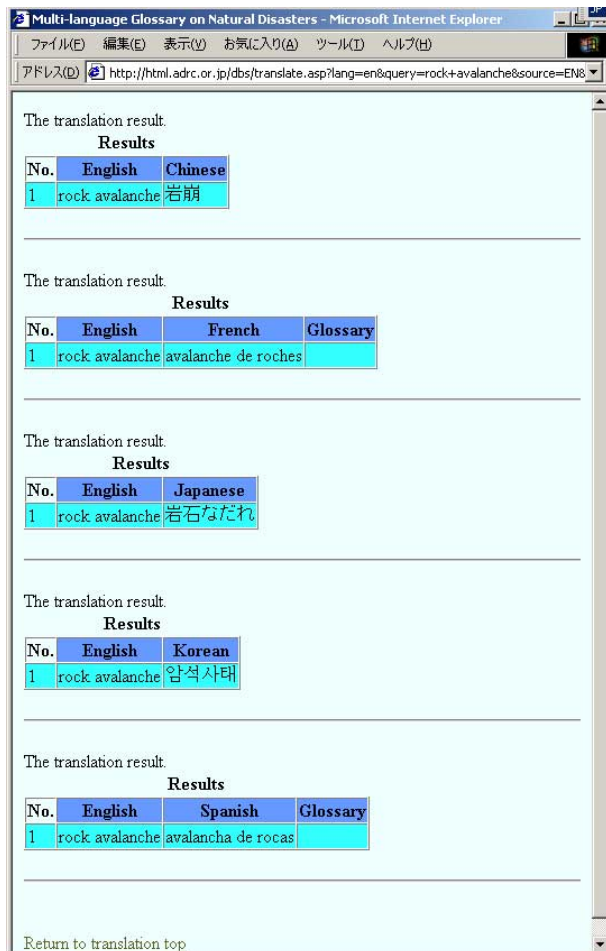


図 2-5-4-2 対応する5ヶ国語の翻訳語表示